

秩父病院での一か月の研修を終えて

埼玉医科大学研修医 2 年目 K.C.

大学で研修プログラムを組むにあたり、地域研修を秩父病院にしようと思った大きな理由が二つあります。一つ目は外科症例が豊富であることです。元々自分の中で外科に苦手意識があり避けていた部分がありましたが、救急を目指すにあたって改めて外科の重要性を痛感し、それを克服したいと考えていました。二つ目は夜間救急が当番制であるという秩父地域の診療体制に興味があったからです。専門性が細分化された大学病院とは異なる医療体制で研修したいと以前から考えていました。

秩父病院での一か月の研修の中で最も印象に残ったのは、水曜日の夜間救急です。内科・外科・小児科などの診療科での枠を超えて、来院した全ての患者さんの診察が出来たのは自分の中で非常に大きな経験となりました。夜間救急だけでなく日常の診療の中でも、自院で治療することが出来る疾患は自分達で治療するという強い覚悟を全てのスタッフが持っているように感じました。診療科が細かく細分化された大学の中だけでは学ぶことが出来なかった疾患や知識を学習できたことも自分の中では大きな財産です。

大学の研修と異なる他の点として、その日にやることを自分たちで考え決めることが出来た点です。自分たちで考えて、自主的に仕事に取り組むことで充実した一か月を過ごすことが出来ました。大学に戻ってからも、決められたことや言われたことをただこなすのではなく主体性をもって今後の研修に取り組んでいきたいと強く思うようになりました。

秩父病院での 1 か月間の研修は自分の中ではとても充実した研修であると同時に、自分の知識と技術不足について痛感する研修でもありました。内視鏡・外科手技・内科的な知識など全ての領域において、自分の力不足を感じました。特に外科手技については基本的な手技もできておらず、より一層の努力が必要であることを実感しました。

院長先生・山田先生・大野先生を始めとする先生方、看護師・放射線技師をはじめとするコメディカルの方々、毎日美味しいご飯を作って下さった栄養士の方々にはタイへの世話になりました。秩父病院で働いている全ての方々の協力のおかげで、充実した研修を送ることが出来ました。初期研修も残り六か月となりましたが、この地域研修で学んだことを忘れずに知識・技術の習得に努めていきます。またどこかで成長した姿を見せられるように、今後一層の努力を続けていきたいと思います。ありがとうございました。